

# なごやの学童保育

市連協ニュース No.11

2016年度・3月7日発行

名古屋市学童保育連絡協議会

TEL (052) - 872 - 1972

FAX (052) - 308 - 3324

E-Mail: info@gakudou.org

HP <http://gakudou.kodomo.co/> Facebook <https://www.facebook.com/NagoyaNoGakudouHoiku>

## 基本額が大幅増

市が来年度の学童保育助成(案)

名古屋市は2017年度予算案に、前年度比7億円増となる約20億円の学童保育関連予算案を盛り込みました。国が示した基準におおむね沿った内容で、基本額を大幅に引き上げるほか、指導員対象のキャリアアップ助成金を新設。しょうがい児受け入れ推進助成の基準も緩和する方針です。さらに市独自の制度として実施している一人親家庭への保育料減免に対する助成も拡充します。

### 【基本額】 = 増額

学童保育所運営のベースとなる助成金です。基本的に、平日で1日3時間以上、長期休暇中や土曜日は1日8時間以上、年間250日以上の開所が条件です。

国基準では児童数36~45人が基本と考えられ、35人以下または46人以上は児童数に合わせ減額となります。19人以下への助成額は特に少なく、児童数の減少が経営状態の悪化に追い打ちをかける要因になっていました。

2017年度の基本額は、例えば「平日13~19時、土曜・長期休暇中8~19時開所」の場合で前年度に比べ、児童数1~19人なら100万円、同20~70人なら75.6万円、それぞれ増額となります。同36~45人なら助成額は554.7万円です。

近年なかった基本額の大幅な増額は、充分とは言えないまでも、学童保育所の安定運営に一定つながりそうです。19人以下では昨年度、20人から1人減って19人になるだけで助成金が438.3万円から303.8万円に134.5万円も減額になっていました。多少の格差改善が実現しそうです。

一方で、71人以上の増額幅は19.4万円とします。適正規模を越えた大規模学童保育所には分割を促す姿勢が改めて示しました。

### 【キャリアアップ処遇改善】 = 新設

私たちが求めてきた「経験加給」を、充分ではないものの、初めて助成制度に加えました。内容は次の3段階です。

- ①指導員の有資格者に年12.4万円/人
  - ②5年以上の専門研修受講者に年24.8万円/人
  - ③10年以上の事業所長的立場に年37.2万円/人
- 3月7日時点で、支給条件など詳細は不明です。

### 【長期休暇期間受入支援助成】 = 新設

夏休みなどの長期休暇中だけ利用する児童の受け入れを支援する制度です。ただし条件は、児童数が増え過ぎて支援の単位(指導員常時2人体制)をもう1単位増やす場合です。

### 【しょうがい児受け入れ促進助成】 = 基準緩和

もう1単位の助成金を出すしょうがい児数を、従来の「5人以上」から「3人以上」に緩和します。年間助成額は前年度比4.8万円増の179.6万円としました。「医療的ケア」384.7万円も明示しました。

### 【ひとり親家庭減免助成】 = 拡充

ひとり親家庭への保育料減免に対する助成は市独自の制度です。従来の市負担割合1/2を2/3に、月額の上限を4000円から8000円に拡充しました。満額を利用するには、従来は8000円の減免が必要で、4000円が学童保育所の負担でした。来年度は学童保育所の同額の負担で1.2万円の減免ができます。

### 【長時間開所加算】 = 増額

年額で、平日分の加算は延長1時間あたり8万円増の37.8万円、長期休暇中等が3.6万円増の17万円に。指導員の常時2人配置が義務となり、現行の助成では

開所時間延長が逆に学童保育所運営の負担になる場合があり、開所時間を短縮する学童保育所も出ています。今回の助成単価改善で本当に無理なく開所時間が延長できるのか、精査が必要です。

### 【常勤職員配置助成・処遇改善】＝減額

常勤職員配置で2.8万円、処遇改善で4万円を減額しました。常勤職員配置助成では、対象外となる人件費相当分が増額されており、総人件費が少ないと限度額一杯は利用できない場合があります。

### 【その他】

しょうがい児受け入れのための改修補助、送迎支援、賃借民家による開設準備、家賃補助など継続。

来年度の助成金は、初めての制度がいくつかあります。しかし説明の場となる運営委員長会議は3月24日と新年度の助成金申請の直前にしか開催されません。既存の資料（区連協にはデータを送信済み。市ホームページでも閲覧可能）をみんなで読み、疑問点を整理しておきましょう。

## 区連協会長会議を開催

名古屋市学童保育連絡協議会（市連協）は2月21日、各区の連絡協議会の会長を招き、2016年度第2回の「区連協会長会議」を開きました。来年度の助成制度をどう理解するかや各区の現状について情報・意見を交換しました。



助成制度については、指導員の常勤職員配置助成が理解しにくく利用しにくい旨などの発言がありました。各区での区役所との懇談会のあり方、区連協の運営上の苦労話なども共有。市連協に関しては「より参加しやすい工夫を」との意見もありました。

## 揺れる心に寄り添う心

指導員作の学童漫画 出版

名古屋市の指導員、廣瀬久子さんが子どもたちとの日常を描いた漫画「心の居場所になれたら まんが・学童保育の子どもたち」（定価1200円＋税）が、かもがわ出版から出版されました。読者の感想です。



「ちゃこの本を読んで、子どもの揺れる心に、寄り添ってくれる指導員の心の揺れが、私の心にじんわりと染み込んできて、揺さぶられました。」

自分の学童保育所の子どもたちを思い浮かべながら「あ〜どっ

かで見たことあるわ」と、ふと微笑み、一気に読みました。

保育実践記録としても、うまくいくことばかりじゃないという指導員の後悔、次に繋げていことする指導員の思いがよく伝わってきます。そして、学童保育歴5～6年のベテラン高学年の偉大さも、あらためて思い知りました。

子どもたちの大半は、このまんがのような“揺れるところ”を持っていないように見えるかもしれません。学童に“心の居場所を求めている”ように見えるかもしれません。

でも間違いなく子どもは、心の揺れを持っています。そして、家庭でもない、学校でもない、そんな「学童」という特別な場所だけで揺れる心、指導員にしか見せない揺れる心が、確かに存在します。

長さ、深さ、奥行き、色、形…揺れ方はみんな違うけれど、もしも子供の揺れる心を見掛けた時には、子どもに寄り添って、一緒に揺れてくれる指導員が学童保育にはいてくれる…、それだけでどれだけ救われることでしょうか。

指導員のみならず、保護者の方にも手に取って頂きたい一冊です。

(昭和区・保護者)